

急速に進展しつつあるグローバル化は、人やモノの活発な交流・移動を促す一方、環境・資源問題への対応、あらゆる脅威への備えなど、社会が抱える課題をより複雑化・多様化させています。日立グループは、さまざまなインフラ技術と先進のIT（情報技術）を組み合わせる社会イノベーション事業を通じて、山積する課題への解決策を提示していかうとしています。2015年4月には、社会の課題を解決するソリューション提供力をさらに強化するため、R&D（研究開発）体制を大幅に再編しました。お客様起点のグローバルR&Dというこの新たな体制は、3つの方針で成り立っています。

まず、「顧客協創」です。これは、お客様と共に将来のあるべき姿を描き、潜在的ニーズを掘り起こしながら、真の課題解決を図るものです。東京、北米、中国、欧州とグローバルに配置した4拠点を基盤に、独自のサービスデザイン手法によって課題を見出し、解決していきます。

それを支えるのが、2つ目の方針である「技術革新」です。日立グループが擁する多様な事業・製品は、とりもなおさず、広範な分野における技術や知見の蓄積を意味します。エネルギー、エレクトロニクス、機械、材料、システム、情報通信、制御、生産、ヘルスケアという個々の分野で技術を磨き、進化させるとともに、それらを有機的に組み合わせることで新たな価値創出の礎を築きます。

また、研究に携わる者は本来、長期的な視点で未来を志向する姿勢を忘れてはなりません。3つ目の方針に据えた「基礎探索」は、そのようなR&Dが本質的に果たすべき役割を体現するものです。物性科学、生命科学、情報科学、フロンティアという4分野を中心に、自由な発想で新領域を開拓しながら、オープンイノベーションの土壌を育んでいきます。

本号では、こうした新たなR&D体制と方針に沿って主なソリューション事例や開発成果を取り上げました。日立グループの取り組みへのご理解につながり、読者の皆様のお役に立てれば幸いです。



日立製作所  
執行役常務  
CTO 兼 研究開発グループ長

**小島 啓二**